

4月1日から市の組織機構が変わります

市民の暮らしに最も身近な行政サービス部門を集約することで、市民生活の質の向上や、業務の効率化と生産性の向上を図ります。

問合 政策推進課



◆変更点

●市民生活部の設置

所管課 市民課・市民協働推進課・人権くらしの相談課・環境課

●課の統合

スポーツ青少年課を生涯学習課に統合します。

※機構改革に伴い、市民協働推進課と秘書広報課(広報担当・おづみん屋)の場所が入れ替わります。

※政策推進課と地域経済課が市長公室に移管となり、政策推進部は廃止となります。

●広聴業務の担当課変更

市長への提言やタウンミーティングなど、市民の皆さんからの意見を聞く広聴業務の担当を、人権くらしの相談課から秘書広報課に変更します。

3階配置図

4階配置図



令和7年度

所信表明 (要約)

「安心感を持って暮らせるまちづくり」を推進し、まちの魅力を向上させる

南出市長は、令和7年第1回市議会定例会で、市長就任3期目の市政運営にかかる所信表明を述べました。全文は、市ホームページに掲載しています。

泉大津市長 南出 賢一

所信表明全文は
こちら



令和6年12月に実施された選挙で市民の皆さんの信任を得て3期目を担わせていただくこととなりました。

市長就任1期目では「元氣な泉大津をつくる」ため、平成30年の台風21号や新型コロナウイルス感染症への対応など、これまで経験したことのない脅威に直面する中にあっても、山積する課題の解決に向けて将来を見据えた「種まき」をしてきました。

2期目には「みんなの力で泉大津を前に！」進め、Library of the Yearを受賞した「図書館シープラ」や国土交通大臣賞を受賞した「シーパスパーク」、高度急性期・急性期を備えた総合病院「泉大津急性期メディカルセンター」の開院に加え、食料の安定的確保に向けた「自治体間農業連携」、あしゆびプロジェクトやマタニティ応援プロジェクトをはじめとする本市独自の「健康施策の推進」など、1期目に種まきをしてきたさまざまな取り組みが、ハード面・ソフト面ともに大きく花開き、実を結びました。財政面では、駐車場事業特別会計と土地開発公社を清算、ふるさと納税や市税収入を増加させるなどの取り組みを進めてきました。基金は約36億円から約99億円へ残高を積み上げ、地方債残高を約640億円から約554億円に減らすことができましたが依然厳しい財政状況です。

3期目は、途上の課題を解決し、市民の皆さんと約束した「安心感をもって暮らすことができるまちづくり」をさらに推進するべく全身全霊・粉骨碎身、取り組んでいく所存です。

さて、昨年は能登半島地震、復興中の奥能登を襲った豪雨をはじめとする大規模災害が頻発しました。また、日向灘を震源とする地震が宮崎県南部で発生したことに伴い、南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」が初めて出されました。そうした中、本市においては、11月に大防災訓練を実施し、全避難所同時開設訓練、参加体験型イベントなどを通じて課題を抽出し、市民の皆さんと共有することで災害に備える意識の高揚を図りました。

さらに、昨年夏に起こったコメ不足、いわゆる「令和の米騒動」やそれ以降コメの価格高騰が続く中、政府は備蓄米の放出について、条件付きで集荷業者に売り渡す方針を打ち出しました。しかしながら、コメ不足や価格高騰については未だ先行不透明な状況です。

本市ではいち早くこうした有事を想定し、令和5年3月に

策定した「安全・安心な食糧の安定的確保に関する構想」に基づき、農山村地域を持つ自治体と連携協定を締結し、独自のサプライチェーン(※1)を構築することで、学校や就学前施設の給食に安定的にお米を供給しました。9月に開催した「IZUMIOTSU WELL-BEING EXPO 2024」においては、連携自治体の協力のもと市場価格より安価でお米を提供することができました。

市民生活に大きな影響を及ぼすさまざまな出来事が起ころ中においても、市民の皆さんのが安心して暮らせるよう取り組みを進めてきたところです。

令和7年度は、これまで創り上げてきた取り組みを、この予測不能な時代においても、その流れを的確に予測しながらさらに発展・進化させ、今後もさらに市民の皆さんのが暮らしの中に一つでも多くの笑顔が生まれるよう、一歩でも前に進めていきたいと考えています。

大阪・関西地域では、万博の開幕が迫り少しづつ盛り上がりを見せる一方で、昨年10月の衆議院選挙で政権与党が15年ぶりに過半数を割り、アメリカ大統領選挙ではドナルド・トランプ氏が大統領に返り咲くなど、今後も国内情勢・国際情勢は大きく変化することが予想されています。加えて、国内における「2025年問題」として、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になることで、5人に1人が75歳以上という超高齢社会を迎え、労働人口の不足や医療体制のひっ迫、医療費や介護費の増加などの社会保障費の増大が懸念されています。さらに、経済産業省がDXレポートで発表した「2025年の崖」(※2)による巨大な経済損失を回避するためにも、組織の意識改革や業務改革、DX人材の育成・確保も急務となっています。

これまで「何が起こるかわからない、何が起こってもおかしくない時代である」という認識を前提に「未来のあたり前づくり」を進めてきましたが、課題が尽きることはなく道半ばです。今後においても、時代の流れを的確に読み、効果的な施策を適切なタイミングで打ち出し、皆さんと力を合わせてこれから迎える難局を乗り越えてまいります。

※1 調達から生産・物流・販売・消費までを含めた一連の流れ

※2 既存システムの老朽化やブラックボックス化・複雑化などにより2025年以降生じる可能性のある経済損失

次ページでは、令和7年度の主要事業を紹介します



できるまちづくり」をめざして

4 安全・安心を一人ひとりが考え、みんなでつくりあげるまち

■安全・安心で希望に満ちたまちを築く

旧市立図書館を、防災倉庫にリニューアルします。これまで分散していた備蓄物資を集め、災害に強いクラウドシステムで一元管理します。さらに、体験コーナーを設置し、災害用備蓄物資の使い方を実際に体験しながら学べる新たな出前講座を開催します。

また、避難所開設訓練や情報伝達訓練、津波避難訓練などを継続して実施し、市民の皆さんとの声を大切にしながら、改善を進めます。



■防災機能の向上とDX化

災害時に対策本部となる市庁舎の受発電設備と自家発電設備を更新し、防災機能を強化します。

また、市職員の罹災証明書発行作業をデジタル化し、内部の手続きを効率化することで迅速な住宅再建支援を図ります。

5 みんなが住みよい環境が整っているまち

■ゼロカーボンシティに向け、緑化を推進

第3次環境基本計画と地球温暖化対策地域推進計画に基づき、市民・事業者・市が一体となり市内の緑化を含む環境保全活動を推進し、泉大津市地域環境基金を活用した補助事業を拡充します。

■特色ある公園づくり

新たに民間認定こども園を整備する東港公園内において、多様な市民ニーズに対応した特色ある公園づくりを行うため、リニューアル工事を行います。また、教育支援センターの解体・移転に伴い、隣接する戎町公園の再整備の実施設計を行います。さらに、穴師公園プールを撤去し、公園の出入口周辺の整備を行います。



6 地域資源を活かしたにぎわいが生まれ、再生、発展するまち

■まちのにぎわいを創出

大阪・関西万博に国内外から多くの観光客が来阪することを見据え、本市へ誘客するための観光スポットの発掘・磨き上げを行い、周遊モデルコースを創出します。また、その魅力を市民やインフルエンサー(※)と連携して発信し、関係人口や交流人口を増やします。

※SNSなどを通じて情報発信し、多くの人に影響を与えていたる人



■プレミアムデジタル商品券を発行します

市民を対象に20%のプレミアムが付いたデジタル商品券を発行し、地域経済を活性化します。

また、地域活動の参加者に地域ポイントを付与することで、市民のまちづくりへの参加を促進します。

7 新たな力を取り入れ、柔軟にアップグレードし続けるまち

■さらなるDX推進にむけた取り組み

市民サービス向上と業務の効率化のため、行政手続きのオンライン化を拡充し、その周知と利用促進を図るとともに、高齢者向けのスマート教室を継続して実施することで安心して利用できる環境を整備します。さらに、投票率向上の方策の一つとして、図書館シープラ内に第2期日前投票所を試行的に設置します。

■官民連携による社会課題解決をめざして

これまで築いた官民連携の実績を活かし、新たな民間事業者との連携を図ります。また、多様な解決策を持つ民間事業者とのネットワークを活用し、複数の民間事業者を巻き込んだ“官民”連携による、先進的な社会課題解決モデルを創出します。



1 みんなが互いに繋がり、理解し、共感しあうことで 新たな刺激が生まれるまち

■大阪・関西万博yearにおける各種取り組み

今年は、大阪・関西万博の会場で「IZUMIOTSU WELL-BEING EXPO 2025」を開催し、「官民連携」「市民共創」による全国共通の社会課題を解決する先導的な「未来のモデル」を披露します。

また、大阪・関西万博の理念や目的の実現に資するイベント「泉大津まちなか万博」を開催します。さらに、大阪・関西万博の開催を契機に、市民とともに植樹活動を通して緑化を推進します。



2 主体的に学び、生涯にわたって 学びの環境を自由に選ぶことで成長し続けるまち

■食を通じた児童生徒の健やかな体づくり

2学期から中学校でも自校調理方式による給食に切り替えることで、給食の質向上とともに調理員との交流を通じて食への感謝を育み、学校と連携した食育を一層強化します。

また、2学期の給食開始時期を早め、給食回数を増やすことで、保護者の負担軽減と児童生徒の健康増進を図ります。



■安全・安心で快適な学習環境の提供

楠小学校では、安全・安心で快適な学習環境を提供し、地域とともにある学校づくりに向け、長寿命化改良工事と地域交流ゾーンの整備を行います。

また、英語教育を強化するため、令和7年9月から全小中学校に1人以上の外国語指導助手(ALT)を配置します。



3 みんなが生き生きと、心豊かに健やかに暮らせるまち

■すべての第3子以降の保育料を全額無償化

子育て世帯の負担軽減のため、本市独自の多子減免制度を拡充し、第2子の保育料を半額、第3子以降を全額無償とします。また、令和8年度に民間認定こども園2園を開園し、特色ある教育・保育環境を整えます。

さらに、令和7年度から周産期小児医療センターで病児保育を開始し、保護者の子育てと就労の両立を支援します。

■「未病予防対策先進都市」をめざして、 未病予防健診の実施や健康と食の施策を展開

病気になる前の段階の未病状態を早期に把握し、健康づくりに取り組むことができるよう、従来の健(検)診に腸内環境検査や女性の更年期対策に着目したエクオール検査を追加した独自の健診である「泉大津版未病予防健診」を開始します。

また、市民の健康増進と「食を選ぶ力・作る力・食べる力」の育成をめざし、全国の農業連携先自治体との協力関係を深化させ、食育の推進や子どもの農業体験機会を拡大します。また、「食と農」を通じた関係・交流人口の増加による地域活性化をめざします。

■高齢者が安心して

健やかに暮らせるまちをめざして

高齢者の将来に対する心配などを軽減するため、人生の終わりに向けた準備(終活)についての相談窓口を設置します。さらに、ひとり暮らしで葬儀などを行う身寄りがなく、生活にゆとりのない高齢者を対象に、生前に葬儀などの手続きを葬祭事業者と契約することに市が寄り添う「エンディングサポート事業」に取り組みます。

■本市の医療体制について

令和6年12月に泉大津急性期メディカルセンターが開院し、市立病院は市立周産期小児医療センターに衣替えを行い、新たな医療体制がスタートしました。急救受入体制を充実・強化し、大規模災害や新興感染症発生時にも対応できる体制を整え、市民に頼りにされる医療を提供します。



大阪・関西万博2025が開催されます

担当 政策推進課

4月13日(日)から大阪・夢洲で大阪・関西万博2025が開催されます。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、人類共通の課題解決に向けて、先端技術の展示、体験ができる機会です。本市も万博会場で「未来のモデルケース」を発信していきますので、ぜひ参加ください。



■本市の出展スケジュール

日時	催事名	内容
5月9日(金) ・10日(土)	大阪ウィーク 大阪の祭！～EXPO2025 春の陣～ だんじり・やぐら・和太鼓など大集合	府内のだんじり・やぐら・和太鼓・神輿などの展示や実演
5月17日(土)	大阪ウィーク(レギュラーイベント) IZUMIOTSU WELL-BEING EXPO 2025	官民連携・市民共創の取り組みの展示やステージでの発表
6月24日(火)	TEAM EXPO 2025プログラム ～IZUMIOTSU TEAM EXPO 2025～	認知症予防・改善プロジェクトや水と二酸化炭素からできる未来の燃料など泉大津から創る「未来のショーケース」を紹介！
7月27日(日)	大阪ウィーク 大阪の祭！～EXPO2025 真夏の陣～ 盆踊り世界記録に挑戦	大津おどり保存会や小中学生らが、「REIWA盆ダンス」を披露
	大阪ウィーク 大阪の祭！～EXPO2025 真夏の陣～ 次世代パフォーマンス	泉大津市立3中学合同地域DANCEクラブと「まちなかアートフェス」ダンスコンテスト入賞チームが、パフォーマンスを披露
7月28日(月)～ 30日(水)	大阪ウィーク 大阪の祭！～EXPO2025 真夏の陣～ 地域の魅力発見ツアー 「みなはれ・やりなはれ・たべなはれ」	「毛布のまち泉大津」を映像やパネル展示でPRし、くるみ餅を使ったスイーツを販売
7月28日(月)～ 31日(木)	LOCAL JAPAN展	健康・美・長寿をテーマにVR映像を作成し、来場者に泉大津市をPR
9月28日(日)	健康・美・長寿推進協議会	(未定)

大阪の祭！～EXPO2025 春の陣～

5月9日(金)・10日(土)に「大阪の祭！～EXPO2025 春の陣～」が開催されます。府内のだんじり・やぐら・和太鼓・神輿などがEXPOアリーナ「Matsuri」に40台以上集まり、大阪の伝統的な祭りを国内外に発信します。

本市からは、南曾根のだんじりが会場に展示され、10日には曳行やだんじり囃子の演奏を行います。



※イメージ

〈本市で活動している共創チャレンジがパフォーマンスを披露します〉

大阪・関西万博のTEAM EXPO 2025「共創チャレンジ」に登録している「ダンスのまちいずみおおつプロジェクト」が、「TEAM EXPOパビリオン」でパフォーマンスを披露します。

当日は、四季をテーマに3～91歳のダンサーが年代別にパフォーマンスを披露します。また本市の無形民俗文化財である大津おどりにダンスの要素を取り入れた「REIWA盆ダンス」、大阪・関西万博のオフィシャルテーマソング「この地球の続きを」を会場の皆さんと一緒に踊り、世代を超えて、ダンスの魅力を泉大津から世界に向けて発信します。

日時 4月26日(土)午後6時30分～8時

場所 TEAM EXPOパビリオン(フューチャーライフヴィレッジ)



取り組みの詳細は
こちら



泉大津市の子どもたちに万博の入場券をプレゼント！

担当 政策推進課

子どもたちに泉大津市分、大阪府分それぞれの万博の入場券(1日券)をプレゼントします。
※入場券入手するには、申請が必要です。

【泉大津市分】

対象 市内在住の4月1日時点で、4~17歳の人

【大阪府分】

対象 府内在住の4月1日時点で、次の①~③のいずれかに該当する人

- ①4~5歳の幼児
- ②府外の小・中・高等学校などに在学
- ③高等学校などに在学しない15~17歳

※府内の小・中・高等学校などに在学している人は、
府教育庁から各学校へ案内しています。

申込 9月30日(火)までにウェブ

問合 府万博子ども招待センター Tel 06-7526-3090

申請はこちら



泉大津市立防災倉庫 愛称募集！

問合 危機管理課

旧図書館(下条町11-35)が、令和7年秋、「防災倉庫」に生まれ変わります。

新しい防災倉庫は、備蓄品の使い方を学べる「体験コーナー」を設け、実際に避難所で使うテントやトイレなどに触ることができます。また、非常時に必要な食糧や生活用品も保管しており、もしもの時にすぐ取り出せるようレイアウトも工夫しています。

この度、防災倉庫の愛称を募集します。

皆さんのアイデアで、地域に親しまれる素敵な名前をつけてください。
たくさんの応募、お待ちしています！

- 応募資格 ①市内在住・在勤・在学の人
②市内で事業を営む事業者
③市内で活動する団体の人

応募期間 4月1日(火)~18日(金)

応募方法 募集要項を確認のうえ、①~⑦を記載し、いずれかの方法で応募

- ①愛称(ふりがな)、②愛称の意味・理由、③氏名(ふりがな)、
④ニックネーム、⑤年齢、⑥住所、⑦電話番号

▶ウェブ:二次元コードから

▶持参、郵送:〒595-8686 危機管理課宛

▶メール:bousai@city.izumiotsu.osaka.jp

※募集要項や応募用紙は、危機管理課窓口または市ホームページからダウンロード。

※採用作品と共に作者の氏名またはニックネームを発表します。

選考方法 応募作品の中から泉大津市防災委員などが3点程度選出し、泉大津市立防災倉庫愛称選定委員会で6月頃に最終決定します。



▲旧図書館の外観



▲テントを組み立てる様子

最終審査に選出された人に
「防災関連グッズ」をプレゼント！
さらに応募者の中から抽選で5人に
景品をプレゼント！



詳しくはこちら



ウェブでの応募は
こちら



「いづみおおつ若者会議(長期インターンシップ)」委員を大募集!! ～まちづくりに挑戦しませんか？～

問合 人事課

「自分自身を成長させたい！」「まちづくりに挑戦したい！」
「行政の仕事を経験したい！」と考えている学生の皆さんを対象に、「いづみおおつ若者会議(長期インターンシップ)」を実施します。

短期の職業体験では得られない達成感や、活動を通して得た自身の成長は、何ものにも代え難い皆さんの財産になります！

応募について

実施時期・期間 6月頃から令和8年3月まで

※学生同士で活動日を設定(不定期)

対象 4月1日現在、大学(大学院、短期大学を含む)、高等専門学校および専門学校に在学している人(居住地は問いません)で、以下の要件に当てはまる人

- ・将来、地域のために働きたい、貢献したいという志を持っている
- ・活動を通して自分自身を成長させたいなど

定員 15～20人程度

申込 4月14日(月)午前9時～5月19日
(月)午後5時に市ホームページから

申し込み
はこちら



〈インターンシップ活動から得られる経験〉

- 考える力が養われて、自身を成長させることができる
- 何でも相談できる仲間にお会い、新しいコミュニティをつくることができる
- 学生たちのアイデアで、まちづくりの企画から運営まで携わることができる
- 行政の仕組みや市職員の仕事が分かる

〈活動例〉

- **市のプロモーション活動**
市の魅力発信のための調査やイベントの企画
- **市民の防災意識の向上**
若者の防災への関心を高めるための活動
- **若者の市政参画推進**
投票率向上に向けた取り組みなど

参加者の声

- 会議の中で意見交換することで、新しい視点から物事を見て深く考える力が身に付き、自分自身を大きく成長させることができました。
- 企画から運営まで携わることができ、自分たちのアイデアが形となる喜びや達成感は「いづみおおつ若者会議」だからこそ味わうことができる貴重な経験です。

「いづみおおつ若者会議」卒業生からのメッセージ

私たちは令和6年から、本市の職員として働いています。
「いづみおおつ若者会議」の活動では、ビジネススキルや一つの物事を多角的な視点から考える力が養われました。また、一緒に活動してくれた職員の熱意が伝わり、私たちも泉大津市で働きたいと思い志望しました。



●市長からのメッセージ

「いづみおおつ若者会議」は、学生の皆さん自身がまちづくりに興味を持ち、自ら考え、積極的に意見を発信できる場です。また、それらの意見を市政に反映するだけでなく、皆さん自身がこの活動を通して成長し、将来さらに高いステージで活躍できる人材となるような機会をつくります。

「いづみおおつ若者会議」が発足して6年。年々、活動がレベルアップし、学生たちの成長を感じています。活動を通して、自分自身やまちの将来と真剣に向き合い、これからの生き方や志を育んでもらえればと考えています。

皆さんの挑戦をお待ちしています！

市長 南出 賢一

●Instagram、X、TikTokで
情報発信中！

詳しくはこち



副市長に重里氏を再任、教育長に竹内氏を再任

副市長

じゅうり のりあき
重里 紀明氏



教育長

たけうち さとる
竹内 悟氏



3月21日に開かれた市議会第1回定例会で、重里紀明氏(64歳)が副市長になることの同意を得て再任されました。任期は令和7年4月1日から令和11年3月31日までの4年間です。

重里紀明氏は、昭和59年4月に泉大津市に奉職以来、人事課長、都市政策部長、総務部長などを歴任され、令和3年4月1日から副市長として市政発展に貢献されました。

問合 人事課

3月21日に開かれた市議会第1回定例会で、竹内悟氏(65歳)が教育長になることの同意を得て再任されました。任期は令和7年4月1日から令和10年3月31日までの3年間です。

竹内悟氏は、昭和57年4月に大阪府に奉職以来、泉大津市立誠風中学校教諭、泉大津市立楠小学校校長、泉南市立信達中学校長などを歴任され、平成31年4月1日から教育長として教育行政の発展に貢献されました。

問合 教育政策課

専門家による専門相談日時、一部変更のお知らせ

問合 人権くらしの相談課

市では、各専門家による相談を毎月、市役所1階市民相談室で行っています。

4月から、以下のとおり専門相談実施日時や相談人数などに一部変更があります。

以下に記載している相談以外にも、専門相談を行っており、すべての専門相談は、事前予約制です。詳しくは、市民相談一覧表(46ページに掲載)をご覧ください。

なお、相談日が祝日の場合、相談窓口の開設はありません。



相談名	相談内容	相談日	先着	1人あたりの相談時間
税務相談	国税や経理などについて、税理士による相談	毎月第2水曜日 →変更 午後1時～4時	9人	20分
特設人権相談	人権侵害問題などについて、人権擁護委員による相談	毎月第4水曜日 →変更 午後2時～4時	2人	60分
特設労働相談	労働問題や雇用問題などについて、社会保険労務士による相談	毎月第3火曜日 午後1時～3時	3人 拡充	40分 →変更
行政相談	国や地方公共団体などへの要望や苦情などについて、行政相談委員による相談	奇数月第1水曜日 →変更 午後1時～3時	2人	60分
ライフプラン相談	将来にわたる家計の不安や、いざというときの備え(保障)、円滑な財産継承(相続)などのマネープランについて、ファイナンシャルプランナーによる相談	毎月第3月曜日 →変更	3人	90分

※ライフプラン相談のみ予約方法が異なります。

ライフプラン相談の
予約はこちら

